

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号														
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目														
					1. 知識・理解			2. 技能・表現			3. 思考・判断			4. 態度・志向性					
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	2-4	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3	4-4	
17UMUA2214	ソルフェージュⅡ	2	ソルフェージュⅠA、ⅠBで習得した専門的基礎知識、および技術をさらに充実させ、教育現場などで必要とされる実践能力を育成する。	♯、♭それぞれ2つまでのメロディーに伴奏付けができるように、また教職、音楽療法士としてのセッション等の現場で臨機応変に対応するために必要な初見、移調の演奏能力を養う。	◎					○									
17UMUA1215	和声法A	1	楽典の知識を身につけ、構築の柱の一つである和音の流れ(和声)をベースに楽曲構成、対位的な旋律の構築について考察する。本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	西洋音楽・文化に関する知識の理解や、演出、表現などを含む伴奏即応力、即興的表現力の向上に役立つ能力を身につけることなどを目標とする。教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	◎					○									
17UMUA1216	和声法B	1	西洋音楽の中核をなすバッハ・モーツァルト・ベートーヴェンなどの作曲家によって完成された和声技法の基礎を学び、和音の使い方を通して、作曲家の意図を正確につかみとる能力を養う。	西洋音楽・文化に関する知識の理解や、演出、表現などを含む伴奏即応力、即興的表現力の向上に役立つ能力を身につけることなどを目標とする。	◎					○									
17UMUA2217	指揮法Ⅰ	2	音楽性豊かな表現をするための基本的な指揮法の習得を目的とする。本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	指揮者と指導者の目線で楽譜を捉えて、それを伝える身体的表現を身に付ける。教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。										◎				○	
17UMUA2218	指揮法Ⅱ	2	さらに多彩な表現をするための応用的な指揮法の習得を目的とする。本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	指揮者と指導者の目線で楽譜を捉えて、それを伝える方法として「応用的指揮法」を学ぶ。教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。										◎				○	
17UMUA2219	即興演奏A	2	「即興演奏」の手法を学び、その基礎力を身につけ、音楽療法の即興演奏にも役立てる。	科目習得時には、伴奏譜がなくても、メロディーとコードネーム付き一段譜を見て、変奏も含めた簡単な即興演奏ができる事を目標とする。						◎	○				◎				
17UMUA2220	即興演奏B	2	即興演奏Aで学んだ即興とはまた違った即興演奏を学習し、音楽療法に役立つ即興演奏を充実させるために必要となる基礎力をさらに向上させる。簡単なメロディーを即興的に作成し、ピアノで即興演奏できる事を目指し、将来、音楽療法、教員や音楽教室講師などの職業に大いに役立つ力を身につける。	科目習得時には、メロディーのモチーフを発展させ、即興的に簡単な曲が作成できる事を目標とする。						◎	○				◎				
17UMUA4221	作・編曲法A	4	主に歌曲の創作を通して、作曲のプロセスを学ぶことにより基礎的な作曲技法を学習するとともに、作曲家の意図する音楽はどのようなものかを把握し、歌唱の団体指導や演奏に反映することのできる能力を養うことを目的としている。本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	西洋および日本の音楽・文化に関する知識の理解や、問題に取り組む方法、表現力の向上に役立つ能力を身につけることなどを目標とする。教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	○									◎			◎		○

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号																											
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目																											
					1.知識・理解	2.技能・表現	3.思考・判断	4.態度・志向性	1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	2-4	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3	4-4										
17UMUA1235	イタリア語表現演習	1	音楽に携わる者に必修のイタリア語の初級文法と発音を徹底する。	1. 同じ5つの発音をもつ日本語とイタリア語の音の違いを理解し、発音練習を繰り返すことにより、歌唱に役立てる。 2. イタリア語の初歩文法を理解する。 3. 簡単な会話を習得する。																	◎											
17UMUA4236	楽器・合奏指導法	4	音楽療法を実践する上で大切なのは、クライアントの多様なニーズや状況に応じた音楽を用いることにより、コミュニケーションできる能力である。クライアントとラポールを形成するための選曲や効果的なアレンジやアンサンブルなど、音楽療法に役立つ技術を習得する。	臨床の場を想定したアンサンブルを通して、クライアントの多様なニーズや状況に応じて音楽を効果的にアレンジし、コミュニケーションできる能力を習得する。																			○	◎	○							
17UMUA3237	歌唱・合唱指導法	3	歌やコーラスの愛好者が多い日本において、その専門的な指導者も多方面から求められている。その現場も内容も多岐にわたり、その指導において広範な知識と魅力的な指導力が必要である。本授業は、魅力ある指導者であるための実践力を培うことを目標とする。	読譜能力の向上、指導を行なう対象者の把握（音楽的な事柄）ができることで、社会に出たとき魅力的な指導ができることを目標とする。																					○	◎						
17UMUA3238	器楽合奏	3	実際の教育現場における多様性に学生が自ら考え、創意工夫をし、対応できる力を身に付ける事を目的とする。本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	アルトリコーダーの基本的な奏法を習得し、合奏を通して、アンサンブルの中における個の表現力とアンサンブル全体の表現力にイメージを及ぼす事により、協調性を育み、自らの演奏の問題を発見し、それを克服する術を自ら考える。教育現場における邦楽への関心の高まりを受けて、篠笛の奏法も学習する。教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。																					○	◎	◎					
17UMUA4239	邦楽	4	学校教育において「和楽器の履修」が義務となっている現状では、その指導者の育成は急務である。その必要性は学校だけにとどまらず、一般社会においても望まれている。本講座では、邦楽を邦楽器（箏）の演奏と歌唱の両面から学び、基礎知識および演奏法の習得を目的とする。本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	箏の基礎知識を理解出来るようになることはもちろんであるが、箏の奏法を習得し、演奏出来るようになることを最も重要と考え、到達目標とする。教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。																					○	◎	◎					
17UMUA3240	演習	3	音楽療法専修：音楽療法の中でも、特に自分の興味・関心のある領域の研究を行う。4年次の卒業論文に向けて研究テーマを見出し、各自の問題意識を深め、必要な知識や研究方法を修得する。授業はゼミ形式で行う。音楽活用専修：音楽活用に関わる基礎的な知識を身につける。	音楽療法専修： ・卒業論文のテーマを設定する。 ・文献検索の方法を知る。 ・授業内においてパワーポイント資料やレジュメを作成して発表する。 ・ディスカッションの方法を学ぶ。 音楽活用専修：アーツマネジメントを中心とする音楽文化事業の企画・運営について理解し議論できるようにする。																							○	○	◎	◎	○	◎

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号																	
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目																	
					1. 知識・理解			2. 技能・表現			3. 思考・判断			4. 態度・志向性								
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	2-4	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3	4-4				
17UMUA3258	臨床医学各論Ⅱ	3	日本音楽療法学会が出題している音楽療法士(補)認定試験問題を解くために必要な知識のうち、“臨床医学各論Ⅱ”の関連分野である“小児の身体的および認知面の発達と疾患”について、音楽療法士として理解しておくべき内容について講義を行う。	ヒトの身体の解剖生理、小児の身体的、認知的発達の基本的仕組みを理解する。さらに発達からの逸脱、疾病、特に後に障害の原因となる病態について理解できるようにすることを目標とする。	◎																	
17UMUA3259	音楽療法演習	3	音楽療法の知識や技法を習得し、実践への応用力を養う。	・高齢者への音楽療法の技法を習得する。 ・子どもへの音楽療法の技法を習得する。 ・音楽の諸要素を療法的に活用する方法を知る。 ・多様な症例を想定した素材・教材について研究する。 ・音楽療法実践場面に必要な観察・評価法を学ぶ。						◎		◎	◎		○		○	○				
17UMUA1260	音楽療法実習Ⅰ	1	様々な音楽療法の対象者や方法、および臨床の実践について、体験学習を通して基礎的理解をする。	・高齢者の音楽療法の実際について知る。 ・子どもの音楽療法の実際について知る。 ・病院における音楽療法の実際について知る。						◎		◎	○	○	◎	○	○	○				
17UMUA2261	音楽療法実習Ⅱ	2	社会的体験を通して、対象者および対人援助についての理解を促進する。	・子どもの音楽療法について知る。 ・高齢者への音楽療法について知る。 ・対人援助に必要なマナーや態度を習得する。 ・音楽療法における観察と記録の方法を習得する。						◎		◎	○	○	○	◎	◎	○				
17UMUA3262	音楽療法実習Ⅲ	3	社会的体験を通して、対象者および対人援助についての理解を促進する。 主に高齢者に対する音楽療法実践に必要なとされる基本的な技能、態度を習得する。	・認知症高齢者への音楽療法の実践方法を学ぶ。 ・アセスメントと目標の設定について学ぶ。 ・音楽療法における適切な音楽の選曲や演奏方法について学ぶ。						◎		◎	◎	○	○	◎	◎	○				
17UMUA4263	音楽療法実習Ⅳ	4	専門的な観点から対象者を理解し、自立的に音楽療法の臨床、実践を行う力を養成する。	・対象者へのアセスメントを行う。 ・対象者に合わせた音楽療法の目標を設定し、計画、実施する。 ・適切な音楽を選択し、療法的な効果をもたらせるように活用する。 ・対象者が演奏しやすいように伴奏する。 ・音楽療法の評価を行い、事例レポートを作成する。						◎		◎	◎	○	○	◎	◎	○				
17UMUA3264	音楽療法研究法	3	この授業において、前期は文献調査の方法や音楽療法研究の主な手法について理解を深め、自らの研究テーマを探る第一歩とする。またExcelを用いて統計解析とグラフの作成を行い、データ解析の基礎を身につける。 後期は、音楽療法士として自己形成する目標と方法を確立し、音楽療法の実践を事例研究レポートとしてまとめあげる力を養う。	通年の授業を通して以下の到達目標を設定する。 ①文献や資料をもとに音楽療法の研究方法、研究内容を理解し、自らの関心領域を見つける。 ②量的研究について認識を深め、データの集計や基本的な統計解析から音楽療法の効果を客観的に考察する力を身につける。 ③質的研究について、個々の多様な事例の理解を深め、療法的視点で考察できる力を身につける。 ④音楽療法関連分野の質的・量的研究、新しい研究事例の学習を通じて、対象者のニーズに応じた臨床・研究法を提案できるようになる。 ⑤授業全体を通して自ら設定した研究課題について、研究計画が立案できるようになる。													◎	○			◎	

